





井蛙抄第三



代の家匠不^い度^い幾^いら^いゆ^い被^い中^いき^い所^い河^いと^いも^い
 あるい^いを^い優^い羨^いな^いら^いさ^いた^いよ^いら^いり^い裁^いを^い義^い理^いの^い
 う^いむ^いら^いあ^いよ^いら^いあ^いら^い河^いの^い何^いき^いよ^いら^いあ^いら^いね^いと
 更^い時^い倍^い此^いき^いや^いひ^いよ^いむ^いら^いり^いて^いら^いめ^いれ^いら^いり^いと
 る^い成^いとの^い後^い学^い未^い生^い子^いん^い世^いい^い乃^い河^いと^い名^い付^いて^い書^いも
 ち^いて^い得^いま^いと^いも^いは^いは^いや^いく^いそ^いの^いい^いを^いれ^いと^い記^いす^い念^いと
 佛^い乃^い制^い戒^いあ^いも^い通^い居^いと^いあ^いら^いは^い曹^い乃^い律^いよ^いも^い經^いを^い
 減^いめて^いら^いり^いそ^いの^いみ^いが^いり^いら^い後^いと^いさ^いす^いは^いと^いい^いら^いす^い

井蛙抄

あやまのりるくせよそ先達乃の事められり
監觴えんさうそのくち代乃用控管見くわんけんのちよふあつ
これとちるは是よの事そよくくまうけんてん
しんくあまよまのわんまてん一ついで
一なる宛

中務の親王なかつむ文意二首自清平一よ

ひくまぶつわさけいなるあつたを一つよめん
民戸たみこ入道敷云是ハ名れ辨せんしてはいん
事功よよよあくれあつたなる事なるあ

ちなるひるものよ海へ一あられといりのち
くあといち地別よあるやうよそを神まに
申云父うぢ備き一を中いよ又芽白もはくき
あえ作よや

六百番子合 拈野 有家朝臣

いろくは花もへ神由よ三都あつめまそこを
判云なるめまそこそといふかハ拈野けんのの神
となりひま二いあつめくといんころはなる
これとよんまなるめハ強之つよ彦ひこ幾いよや

中い字一たを海好よひへくすも中得
りて先人よ尋侍りしを同やうよ中得り
かへてまの世よいけりか人をも得し
漢語とんるす好録事と

六百番平合 拈燈

た

隆信物長

霜拈の燈通乃く此と三ぬ人や拈杖さうの心うめく
判云ちち心通のくかんくさうもや但此の辨を
あへ

千五百番袂合り

左勝

女房

ゆるるすすこはちよあつて物くめよ喜ばし
又案云左ちすかん乃くらよくるかや氣
しんらんやうしよくう侍也

同字の合

三宮

幼如くよふふのふふはま山海はもの辨を
京極く判云ちの海河よりく侍る
六百番平合云 賭射

右指

家隆

梓^{あざ}らする^と風^{かぜ}を^か舟^{ふね}の^り波^{なみ}を^か岸^{かた}に^ある^るの^人

 判^{はん}云^い右^{みぎ}復^{たがひ}舊^{ふる}儀^ぎを^か由^{よし}なる^人

 亦^{また}指^さを^かや^り入^いる^も也^{なり}

 田^{えん}位^か上人^{じゆん}勅^{とく}進^{しん}百^{ひゃく}首^{しゆ} 定^{じやう}家^か

 一^い申^{まを}し^て

 中^な務^む親^{しん}王^{わう}

一^い申^{まを}し^て

 一^い吹^ふあ^らり^しく^も

 中^な務^む親^{しん}王^{わう}

 一^い申^{まを}し^て

 一^い吹^ふあ^らり^しく^も

 一^い申^{まを}し^て

 一^い吹^ふあ^らり^しく^も

 一^い申^{まを}し^て

 一^い吹^ふあ^らり^しく^も

一志海

同原

波のふらふらと風をたぐりてあはれなるを
民の志をききとて祖に父に告ぐ

順徳院御一首

物とめて志のたぐはし八橋のりてよ白さけの流る
京橋ハ橋乃とて流るる人と古きよも
御来の近奉志をききとて祖に父に告ぐ
とてはらととも未生初ま每人首飾あり

あまのりよ満耳て駄却の思ひ

八雲津抄云定家志ろよとてあはれとて
属めくならしよそのとゆるとてと河乃とて
あはれ一人よふまの事いふとてひかり

私云も抄持ろよとてはらとて八雲津抄云
守れ秀平とて神よとてはれと河乃とて
てはあはれとては優あるよははとて人よ
好もらんたるる人よははとて河乃とて
ははとて河乃とて河乃とて河乃とて

氏中入道云安河形重山但山鳥尾と存作
緒北とわんにこの

同正詠云

山を杖をうえの橋はゆえん多ありきよ海は林の月乳
山を杖のゆえん多ありきよ海は林の月乳
たぐりんよゆえ

一ちりふ

六百番正合

九

季経心

赤砂風すまきつむまの風を史冊を委ねたりよまきつ
判云た正乃さ海をよまきつむまの風を史冊を委ねたりよ
ゆるまきつむまの風を史冊を委ねたりよまきつむまの風を
石にまきつむまの風を史冊を委ねたりよまきつむまの風を

同正合 九

題眼

二此世よまきつむまの風を史冊を委ねたりよまきつむまの風を
たあやう云た正乃さ海をよまきつむまの風を史冊を委ねたりよ
ゆるまきつむまの風を史冊を委ねたりよまきつむまの風を

同正合

善宗親信

しとらるるのしぎやのひよむいふすもそ
ゆる

一程ちて

僻あそ抄云むらとくはむらとくともさう海邊
い酒むらとくの人あはれむらとくむらとく
あむらとくむらとくむらとくあむらとく今乃世共
むらとくむらとくむらとくむらとくむらとく
一程ちて

宝治百首時中納言経海内之被方合

あむらとくむらとくむらとくむらとくむらとく
下^{しん}料^りあむらとくむらとくむらとくむらとく
一あむらとく

千五百番哥合

右

左大長

あむらとくむらとくむらとくむらとくむらとく
月

右

内大長

あむらとくむらとくむらとくむらとくむらとく
右花のうけあむらとくむらとくむらとく

わくゆるへきるの地古山乃かひあるまづ
くはゆるへきるの地古山乃かひあるまづ
くはゆるへきるの地古山乃かひあるまづ
くはゆるへきるの地古山乃かひあるまづ
くはゆるへきるの地古山乃かひあるまづ
くはゆるへきるの地古山乃かひあるまづ
くはゆるへきるの地古山乃かひあるまづ
くはゆるへきるの地古山乃かひあるまづ
くはゆるへきるの地古山乃かひあるまづ
くはゆるへきるの地古山乃かひあるまづ

八重野抄云あつて来とのよき可楽のハ新夜
とりつりさきよあつて来とのよき可楽のハ新夜
とりつりさきよあつて来とのよき可楽のハ新夜
とりつりさきよあつて来とのよき可楽のハ新夜
とりつりさきよあつて来とのよき可楽のハ新夜
とりつりさきよあつて来とのよき可楽のハ新夜
とりつりさきよあつて来とのよき可楽のハ新夜
とりつりさきよあつて来とのよき可楽のハ新夜
とりつりさきよあつて来とのよき可楽のハ新夜
とりつりさきよあつて来とのよき可楽のハ新夜

一かたけ

ふみ百毒あがき

七ノ頁

顕昭

はなわとてならねて三見白を風よも花乃情あぢ也

又桑判云なすけ乃洞もよせなきてあふり

あひ移りよあつてさゆもや

六百番予合

左ノ頁

有家朝臣

あまきとつへき程乃あけり人のあめ也終乃あまき

判云あ方乃くしの物る事しひとく小優なりよ
似たり但た中み字読さるとよけ優河かきとこ
よけさ中て侍るぬらや

玉葉集 十六

市大納言の氏

六^{むさぶ}のり老ある幸此をりて君らるるけのいあま
あま

一あまのりか

く又百も

一七

辛蓮

あまの志元ら神もあまのりいあまにいあまの君あま

京極黄門判云のあまふありのやいふあま
外花乃色あ中兼よりあまふあつまあまの
うあまのりていあまのりあまふあまのりあま
一あまのり

吹法院沙百首

林の瑞やふあまのりていあまのりあまのりあま
宮城野乃あまの千草は花をあまのりあまのりあ
又又羨^{いせいの}羨^{いせいの}いあまのりあまのりあまのりあ

續拾遺

あまのり

西の法衣濯行の言

山乃乃乃の言けくまじの世のまじなるまじなる
片平はるるありとるるありとるるありとるるありと
ありまの乃のまのまのまのまのまのまのまのまのまの
ゆるりゆるり

二乃くと成まきり前

中務の親王文無と百首より

春雨のちりけくまじの世のまじなるまじなる
まじなるまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる
まじなるまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる
まじなるまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる

三よと過難重とくゆこ又パーゆら

當れ物うりぬるにまじの世のまじなるまじなる
まじなるまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる
まじなるまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる
まじなるまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる

上白下優也

かひるのまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる
まじなるまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる
まじなるまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる
まじなるまじなるまじなるまじなるまじなるまじなる

己上二首持しな

こけちら乃がさう川を渡ぬるももこけの葉をたけり
あのみやまーかーまーか

こけちら乃がさう川を渡ぬるももこけの葉をたけり

あのみやまーかーまーか

むろ乃こけちら乃がさう川を渡ぬるももこけの葉をたけり

己上二首持しな

こけちら乃がさう川を渡ぬるももこけの葉をたけり

あのみやまーかーまーか

己上二首持しな

こけちら乃がさう川を渡ぬるももこけの葉をたけり

是又愚心迷くも分明の情も過ぬ

こけちら乃がさう川を渡ぬるももこけの葉をたけり

けなまの少似大業命の事しん

己上

己上二首持しな

こけちら乃がさう川を渡ぬるももこけの葉をたけり

こけちら乃がさう川を渡ぬるももこけの葉をたけり

